

資料館だより

第 17 号

平成 4 年 9 月 15 日

編集・発行 武蔵村山市立歴史民俗資料館

武蔵村山市本町5-21-1 TEL 0425(60)6620



野山北公園の林相

前書き

今回の資料館だよりでは「野山北公園の植生について(1)」と題する報告を寄せていただきました。

野山北公園は「都会のオアシス」と呼ばれる狭山丘陵の南麓、武蔵村山市に位置します。昭和52年、武蔵村山市職員の手作りによるフィールドアスレチックを目玉に開園しました。現在では「野山北・六道山公園」という名称で、武蔵村山市、瑞穂町にまたがる広域的な自然公園(計画面積253ha)として東京都により整備されています。

しかし、緑の保全を目的として設置された野山北公園ではありますが、具体的な植生状況は全く把握されていませんでした。現在、どのような植物がみられ、

どのように守っていくべきなのか、その前提となる基礎資料がありませんでした。幸い、昨年、一昨年の2年間に渡り、東京都立小平西高校の石橋正行先生を始めとする自然研究部O.B.諸氏により野山北公園を対象とする植生調査が行われ、その報告を当館に寄せていただきました。今号では木本(樹木)の植生を中心に報告いたします。

この報告により少しでも自然保護に対する理解が広まるよう念じております。最後に貴重な原稿をお寄せいただいた東京都立小平西高校自然研究部O.B.の方々に厚く御礼を申しあげます。

野山北公園の植生について(1)

東京都立小平西高校自然研究部O.B.

(石橋正行 川口清隆 蔭山一人
須藤弘樹 佐藤史章 小松崎圭子
野崎潤一 奥原幸男 千葉朋子)

1. 野山北公園の概略(第1図参照)

狭山丘陵は東西約11Km、南北最大幅約4Kmの丘陵で、武蔵野台地上にほぼ独立した形で存在している。丘陵の縁では、侵食谷がよく発達し、大きな尾根が数多くみられる。さらにその尾根にも小さな谷があるため、地形が複雑になっている。斜面は急な箇所が多く谷戸と呼ばれる谷奥部では湧水や湿地が随所にみられる。

丘陵の南西に位置する野山北公園は、狭山丘陵の他の地域と同様に複雑な地形を有している。5つの尾根とそれに挟まれた4つの大きな谷で形成され、斜面の傾斜は緩急が激しい。斜面下部や谷戸では湧水がみられ、随所に沼や湿地が形成されている。尾根上は広く、展望台や

休憩場が作られている。尾根の高さは、おおよそ海拔150~160mで、天気の良い日には展望台からかなり遠方まで見渡すことができる。

植物相はコナラ(ブナ科)を主体とする二次林(雑木林)が占めている。林床には、アラカシ(ブナ科)、シロダモ(ブナ科)、ヒサカキ(ツバキ科)など常緑樹の幼木が多くみられる。この種は二次林の中に残った「照葉樹林の遺存種」と言える。また、イヌシデ(カバノキ科)、ホオ(モクレン科)、オニグルミ(クルミ科)などの温帯性落葉広葉樹林帯と呼ばれる分布域に含まれる種も存在している。

2 野山北公園内の湧水(第2図参照)

野山北公園には大小合わせて10の湧水がある。このうち4箇所は季節によって出現、消滅を繰り返すが、全体的にみて水量は安定している。

〈湧水比較表〉

No.	水量	状 況
1	微	谷の底部にある。まれに、にじみでていると言った程度。付近に極浅い湿地があるため、近辺に別の湧水があると思われる。
2	中	急斜面の下部にある。涌いた水が溝をゆっくりと流れる。
3	多	突き出た尾根の先端下部にある。涌き出した水は人為的に池に導かれている。
4	多	谷奥にある。水量はかなりあり、極小さい小川を形成する。水は湿地、水田をおおう。
5	多	斜面の下部にある。公園の改修工事により、新しい池に水をおおく導くため、斜面を削りとってある。
6	多	斜面の下部にある。3. 4. 5. と同じく平均して同じ水量を保っている。
7	微	降水量が多くなると出現する。出現すれば、水量は多い。
8	微	降水量が多くなると出現する。現在では濁れてる。
9	微	降水量が多くなると出現する。
10	多	斜面下部に直径1mほどの池を形成する。水は池から溝を通り休耕田へとそそぐ。

注) 表の湧水No.は第2図の湧水No.に該当する。

3 植生 (木本) 概要

(1) 植生 (第3～6図参照)

詳しくみるとコナラ二次林は次のように分類できる。谷間でわずかにクヌギ (ブナ科) が混じるコナラークヌギ林様相、尾根付近のアカマツ (マツ科) が多く混じるコナラ (ヤマツツジ) - アカマツ林様相、斜面のクリ (ブナ科)、アオハダ (モチノキ科) が多く混じるクリーコナラ林様相である。

クヌギコナラ林様相

谷間では、落葉による保水力と湧水により湿気が多い。ここでは高い頻度でクヌギが出現するため、クヌギのみられない斜面とは区別した。また、谷間ということからか低木層は少なく見通しがよい。

コナラ (ヤマツツジ) - アカマツ林様相

尾根稜線は地形的にも土壌が浅く、貧養で乾燥しやすい。このことにより、稜線沿いはアカマツが優占し、集中して分布する。低木層にはヤマツツジ (ツツジ科)、ネジキ (ツツジ科)、リョウブ (リョウブ科) などが多

く含まれる。また、ヒサカキもかなりの頻度で群生する。

クリーコナラ林様相

公園のほとんどの斜面を占める。「クヌギコナラ林様相」の構成種と共通のものが多く、クヌギがみられないため区別している。また、「コナラ (ヤマツツジ) - アカマツ林様相」の構成種とも共通のものが多く、アカマツが少ないことからこれも区別した。

コナラを中心にエゴノキ (エゴノキ科)、アオハダ (モチノキ科)、イヌシデ、クリ (ブナ科)、リョウブなどが多い。ヤマザクラ (バラ科)、アカマツ、ネジキなども含まれることがある。林縁近くにはミズキ (ミズキ科)、ガマズミ (スイカズラ科) などが多くなる。林床にはアラカシ、シロダモ、アオキ (ミズキ科) など常緑樹の幼木が多い。まれにイヌツゲ (モチノキ科) が含まれる。

(2) ブロック別解析 (第2図参照)

Aブロック このブロックでは南向き斜面はクリーコナラ林様相をみせる。林床には落葉が厚く堆積し、保水度は高い。尾根稜線上では林床が乾燥しており、コナラ (ヤマツツジ) - アカマツ林様相をみせる。共に低木層にはヒサカキが随所で群生する。

北向き斜面では南向き斜面と同様にクリーコナラ林様相をみせる。樹木種はヒノキ (ヒノキ科) がわずかに確認された。ヒサカキが群生しないため林床は見通しがよく、コアジサイ (ユキノシタ科) が広い範囲に分布している。

両斜面にはアズマネザサ (イネ科) が群生しており、特に南向き斜面に多い。また、谷の水際では丈が1.5m以上にもなる所がある。

Bブロック このブロックの尾根稜線上はアカマツなどの高木層をはじめ、ネジキなどの低木層、林床にはヤマツツジ (ツツジ科) が多く、コナラ - アカマツ林様相をみせる。東側の一部と中央の南に張り出した尾根稜線ではヒノキが多くみられ、ヒノキ植林様相をみせる。

斜面はクリーコナラ林様相をみせる。林床には低木層が少ないため比較的に見通しがよいが、まれにアラカシ、シロダモ、イヌツゲが含まれる。

谷間ではコナラークヌギ林様相がみられる。所々でアラカシ、シロダモ、アオキなどの常緑樹が林床に目立つ。

このブロックの林床ほぼ全域を丈の低いアズマネザサがおおっている。

Cブロック 尾根上はコナラ (ヤマツツジ) - アカマツ林様相、斜面はクリーコナラ林様相をみせる。

東端の斜面では公園整備により整地され、現在ではサクラが植樹されている。

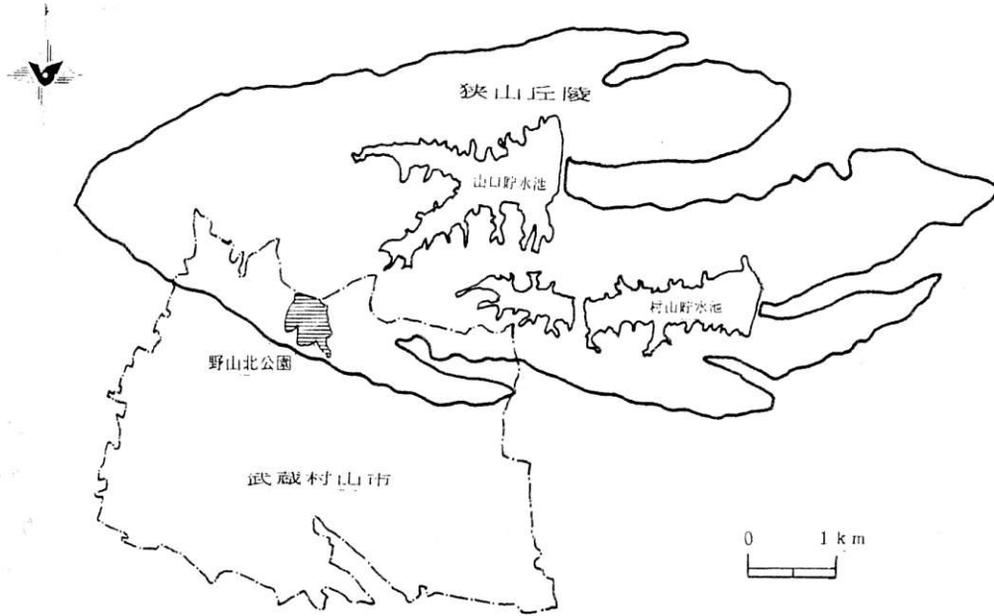
Dブロック ふもと付近で傾斜がきつく、尾根上に行くにしたがって緩やかになっている。尾根最上部には公園整備により見晴台の様な休憩場が造られている。ヒノキが多くみられる。

コナラ (ヤマツツジ) - アカマツ林様相とクリーコナラ林様相が複雑に混じる様子をみせている。

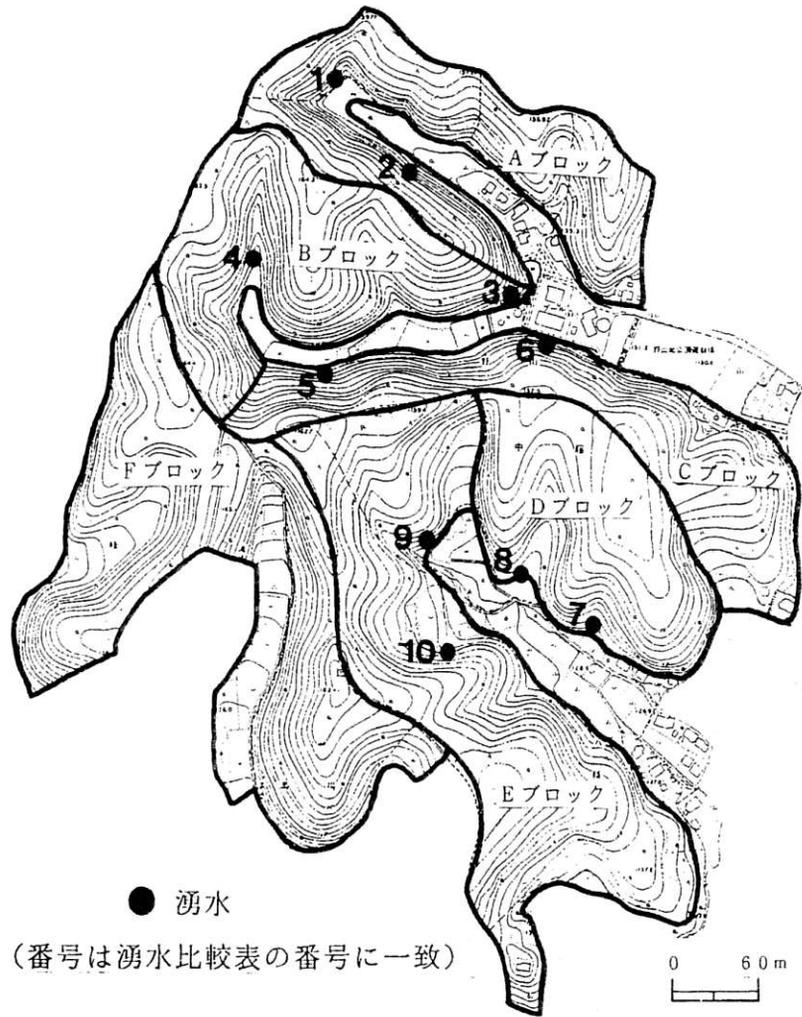
Eブロック

傾斜は急で、場所によっては段差を生じる場所がある。谷が各所に入り込み、意外に起伏が激しいが、尾根上は平坦である。尾根上に広い道や展望台があり、人が多く訪れている。

Fブロック 傾斜はかなりきつい、ここも尾根上は平坦になっている。西向き斜面では段差を生じている所がある。中央の谷は公園整備により人の手が加わっているが、あまり人が訪れないようである。湧水は認められていない。 (文責 蔭山 一人)



第1図 野山北公園の位置



第2図 調査区の分割と湧水



アカマツ

ヒサカギ

クヌギ



ヒノキ

スギ

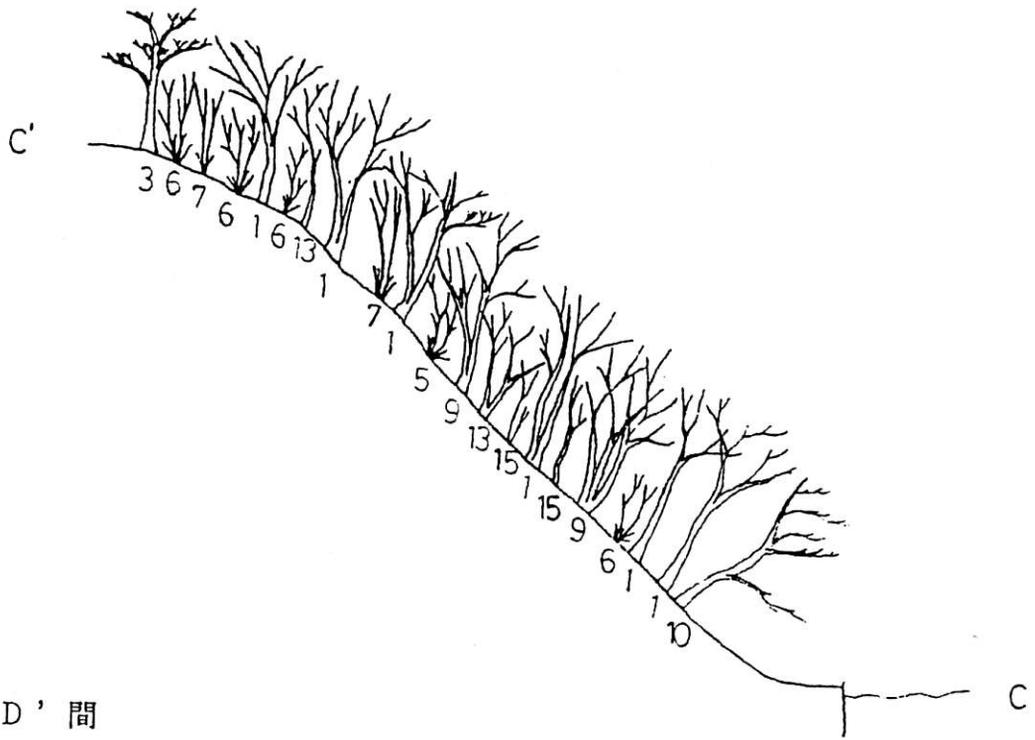
伐採

図中のアルファベットは第5図、
第6図の断面模式図の位置を示す。

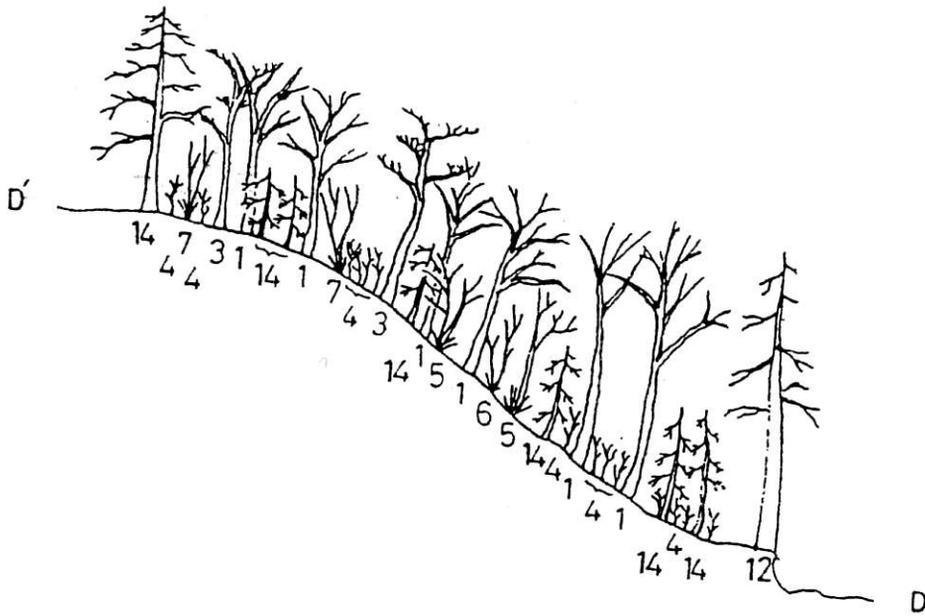
第3図 植生(木本)分布(1)

第4図 植生(木本)分布(2)

C - C' 間



D - D' 間



・ 凡例

- | | | | | | |
|---------|-----------|----------|---------|---------|--------|
| 1. コナラ | 2. ヤマサクラ | 3. アカマツ | 4. ヒサカキ | 5. イヅノキ | 6. ネツキ |
| 7. リョウブ | 8. ヤマハンノキ | 9. アオハダ | 10. ミズキ | 11. クヌギ | 12. スギ |
| 13. クリ | 14. ヒノキ | 15. イヌシデ | | | |

第6図 断面模式図(2)

特別展示「武蔵村山の村絵図」

期間 9月13日(日)～12月13日(日)

市内には江戸時代に作成された村絵図が残されています。村絵図には集落、寺社、耕地、道、川、溜池などが描かれているため当時の村の様子を一目瞭然に伝えてくれます。

村絵図の多くは領主や代官の交替時に村明細帳(村の様子を記した帳簿)とともに提出させられたり、検地帳(耕地の面積や生産力、租税負担者を記した土地台帳)の資料として提出させられました。作成者は名主などの村役人であったようです。この他、特定の目

的を持って作成されたものとして境界争いの裁許状(判決文)の裏面に描かれた絵図もあります。

中藤村に残されていた村絵図の雛形を見ると、字名や御朱印地(幕府が寺社に対して所領として与えた土地)、除地(租税を免除された土地)などの他、目印となる堂社、大木、大石なども描くこととされています。また色分けの凡例として村境、字境、道、堤、用水並びに川、本田、新田などがあげられ、方位は北を下にすることとされています。

(写真解説)

写真1 中藤村絵図〈文政4年(1821)〉

旧中藤村名主乙幡家所蔵の村絵図です。集落や耕地、道、寺社などが描かれています。乙幡家に残されている文政4年の村明細帳と宛名、差出人が同じであり、これとともに作成された村絵図と思われる。

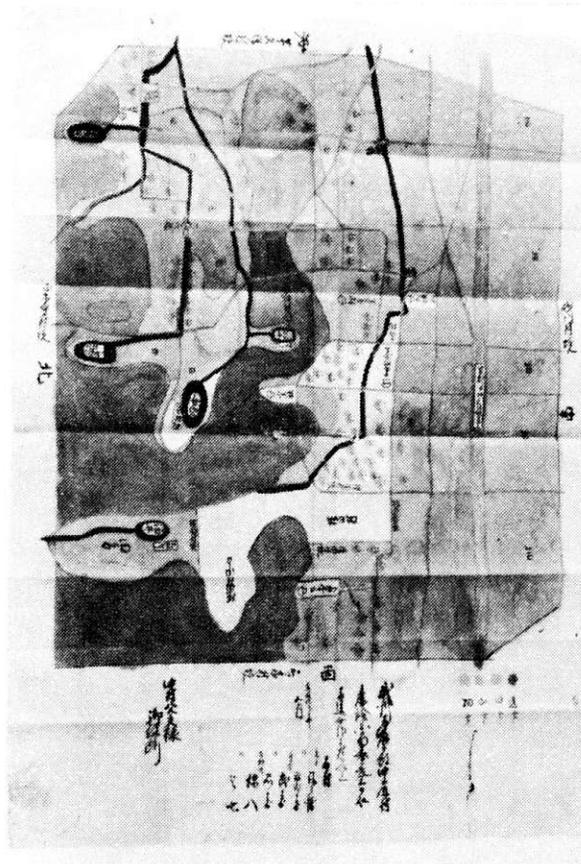


写真1 中藤村絵図

写真2 三ツ木村絵図〈文政4年(1821)〉

旧三ツ木村名主増尾家所蔵の村絵図です。庚申塔や大木なども描かれた詳しいものです。この村絵図も増尾家に残る文政4年の村明細帳とともに作成されたものと思われる。

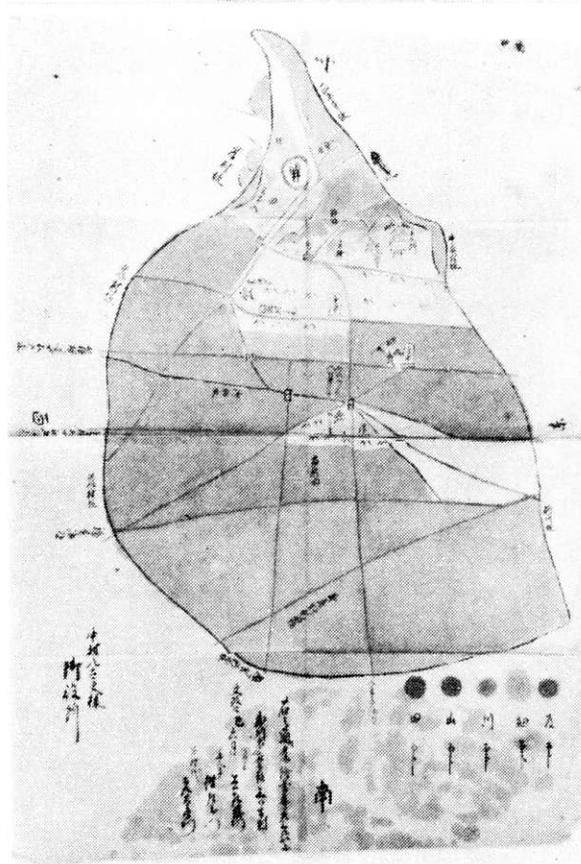


写真2 三ツ木村絵図